

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

登壇の許可を得ましたので、ただいまより山口裕子、一般質問をさせていただきます。お昼前にもなりました。時間がちょっと気になるんですが、簡潔に質問していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

まず、昨年来からの選挙などでは、本当に皆さんもそうだったと思いますが、不安がたくさんあったと思います。しかし、新しい年になりました。すべてにおいて武雄市にとって新しいスタート、さわやかなスタートになるように願っております。

それで、やはり選挙が終わりましても、私としては何か心すっきりいかないものがあったんですが、先ほど市長の答弁もあっていたと思いますが、医師会の方と記者会見をされて、和やかに笑顔で握手をされているところを見て、私もああ、これから本当に武雄市にとっていいスタートになるんだということを感じて、応援してくださる皆様も本当にこれをみんな待ち望んでいたんだということをお聞きしましたし、私も本当に何かしら初めてお正月気分になれたようなその日でありました。本当に市長もいろんな面で力をつけて、新しいスタートとっていらっしゃるように、私たち市民一人一人もこの武雄市が本当に素晴らしい武雄市になっていくという気持ちでかかわっていききたいなというふうに思っております。

あと一番市長が言っておられるぬくもりのある武雄市、そして私はすべての人が安心して過ごせるまちづくりを、母親としては、やはり安心して子どもを産んで育てることのできる環境ですね。やはり次世代にできるだけ負担を残さないで、負担を先送りしないで、今私たちが解決してやれるものは解決して、本当に少子・高齢化社会に向けて安心できる世の中、安心して過ごせる世の中を私たちが次の世代に受け渡すことが一番重要ではないかというふうに思っております。

そういうことを踏まえて、1年間、市民病院問題が本当に中心になっていたんですが、その間にもいろいろな問題が、早く急がないといけない問題がたくさん起こっております。

今回、私は市政問題というか、一番急いでほしいという形で農業政策に絞ってお尋ねしたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、早速ですが、1番目、農業政策の中で3つの項目に分けております。まず1つ目が地産地消について、2番目が農業後継者問題について、それで、3番目が農業委員の選出についてということでお尋ねしていきたいと思います。

1番目ですが、昨年3月の一般質問の中でも私は食育環境ということで農業の大切さ、農業を理解するためにも学校給食においてどれくらい地産地消という形で武雄市の産物を学校給食に提供していけるのかという形で質問しておりました。

今の現状ですね、現在、学校給食においてどれくらい武雄市の産物が提供できているのか。そして目標値、今後どれくらい提供していきたいというような目標値がありましたらお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

答弁はだれ。

〔3番「担当部長によろしく願いいたします」〕

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

食材については、最新では11月の第3週あたりに調査いたしておりますが、大きな数値としては変わっておりませんで、武雄市産が約30%、県産が20%、そして国内産が30%、外国産が20%という、大きな動きとしては変わっていないというふうに見ております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

やはり地産地消といいましても、なかなか地元の給食でも自分たちの産物は食べられていないという状態ですね。全国的にもやはりそこから農業の考え方、そして意識を変えていこうということで、そこに力を入れているわけですので、やはり今後どれくらいの目標でやっていくかというところをはっきりしていただきたいなというふうに思っております。

ほかの自治体でもやはりいろんな連携をして、近いところで朝倉市では、農業委員さんの委員会とかJ A、生産者、栄養士さん、行政が取り組んで、40品目の産物を取り入れているわけですね。私ももう2年前ぐらいになりますが、唐津市の浜玉に試食に行ったときも、その日はたまたま1日だけ100%、地元ので100%できるんだということで試食をしてまいりました。

浜玉町でも日ごろから70%、80%と言われておりますので、やはり農業後継者を育てるとか、農業が大事だとか、今からの食は農業だとか、子どもたちを育てていく中から地元の顔の見える食材、食育というところで一番大事だということを言っているならば、ここが結びつかないと本当にばらばらですね。食育とか農業とか、いろんな形で頑張っているんだけど、つながっていかないという現実じゃないかと思うので、やはりここら辺は農林商工課のほうで出ているんじゃないかと思うんですが、うちは学校給食に何%は食材を提供していきたいという形でそういう目標とか気持ちをお聞きしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

目標値については、副食材の自給率については武雄産を20%、県内産30%で、合計は50%と今なっております。今後の目標値といたしましては、県は農林水産物の使用割合を50%、武雄市も県に合わせて50%としておるのが教育委員会の目標であります。

私自身は、この数値よりも、できれば米飯をやっぱりふやさなければだめだというふう

思っております。米飯をふやすことによって山内のチンゲンサイであるとか、ニンジンであるとか、あるいは北方でつくられているタマネギであるとか、デザートにイチゴということもあると思うんですね。だから、基本的に米飯をふやすと。

ただ、この問題点は、前答弁をいたしましたとおり、私は昔、御飯が嫌い。なぜかという、給食で御飯と牛乳が一緒に出るんですね。これはやっぱりいかなものかということもありますので、カルシウムの必要性等についてはまた別途ふりかけ等でとるにしても、とにかくお米と東川登、西川登のお茶が飲まれるように、それで上げていくと。私は、米飯とお茶、そしてチンゲンサイとの副材が組み合わさって、結果的にこの使用割合というのはふえていくというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

米飯については、次の次の項目でお聞きするようにしていただんですが、先に回したいと思っております。

米飯給食が出ましたので、そのことを含めて、これも前回言っておりましたが、やはり市長が言いましたように、パンでは副食とか、なかなか野菜類とかが消費できないと思うのと、やはり米消費が大事だと言っていることと、あと栄養バランスですね。あと日本の食が外国のほうからも見直されて健康にいいという形で打ち出されている中、やはり学校給食を4回から5回の米飯給食にさせていただきたいなということを言っておりましたが、それはどのように進んでおりますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話にありましたように、パンを使った場合は県内産の小麦が40%で北海道産が60%のブレンドになっております。これはどうしても甘味とか、それから粘り等を考えたときにそうせざるを得ないというような話も伺っておりまして、地元産をという数値をどうしても下げる部分でございます。

これまで米飯を3回、パン2回の割合でしてきたところでございます。これまでの議論にありましたように、地産地消を含む食育の推進、それから子どもたち自身も腹もちのよさといえますか、そういうところもございまして。そして、パンの値上げ率と御飯の値上げ率を比べますと、やはり米の値上がり率が低いわけでございます。そういうことを加味しまして、21年度より米飯を4回、パン1回の割合でできないかという協議を進めているというところでございます。加えて言いますと、今年度半ば、文科省のほうも米飯4回への方針を出して

いるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

じゃあ、21年度から4回ということになるわけですね。やはり材料の調達方法とか集約、できるだけ武雄のお米を、生産者はだれだれですとか、顔の見える伝え方をさせていただいたらうれしいなというふうに思います。野菜にしても周年栽培ができるような指導をしていただくとか、やはりそこに動いていただく方が連携をとらないとなかなかこれは進まないと思うんですね。ぜひ学校給食も、いろいろな資材の高騰などもあって給食費の値上げとかも言われておりますので、それも値上げ幅が高くないように補てんの仕方があると思いますので、そこを補助をしていただきたいということとか、あともう1つは、家庭も弁当を年に1回とか2回とか3回、子どもたちに持たせることによって家庭での食育の意識というか、そういうことも高まると思いますので、いろんな条件の悪いところはみんなが協力し合っ、て、こういう地域の食材、そして農業の活性化につながっていくような方法にぜひとも私は持って行っていただきたいと思っておりますが、材料の調達方法とかに対して努力をされているところがありましたら、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話にありましたように材料の調達方法、よく言われますように四里四方の食べ物をという事で、現在、以前と比べますとさまざまに食材の調達方法も工夫を重ねてもらっている状況でございます。JA、あるいは青果市場、それから最近は直売所からとか、あるいはそれぞれの営農学級の方が御協力いただいている。そういう形で本当に地元の食材をという思いに支えられまして、学校給食もそういう食材の調達方法にさまざまな工夫ができていているという状況で、ありがたく思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

それぞれではできているような報告ではありますが、できるだけ50%から70%とか地元のものを入れていくにはやはり密な連携ですね、武雄市全体を通してもそうですし、学校の区域別であってもいいと思いますので、ぜひとも朝倉市のように農業委員さんまで動いて、JA、生産者、栄養士さん、行政との連携で、こういう形を早く立ち上げていただくことが先決じゃないかなというふうに思います。

計画的な栽培を山内のときの栄養士さんと言われていましたが、なかなか計画的な栽培を

お願いしたいんだけれども、そこがスムーズにいかないとか、その連携がとれないとか、こういう形では食材にお金がかかってなかなかできませんとか、そういう問題を以前からお聞きしておりましたので、できるだけそういう問題点をなくして、地域の食材、そして農業の後継者育成につながるような形で食材を提供していただきたいというふうに思っております。

あと一番言われるのは、私も感じているのですが、栄養士さんがどうこうということではありませんが、その栄養士さんとの連携、あと学校給食の指導の連携とか、そういうのも大切になってくると思うんですが、そういう点では教育長はどのような形で行っておられますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

御存じのとおり、6名の栄養職員さんがおられます。そして、その1名が今年度から栄養職員の仕事もしながら、栄養教諭として配置がなされたわけでありまして。そして、今年度栄養教諭の方2名は学校をちょっと移ってもらったわけがございます。それは、食育を全市的に進めるという食育推進計画が、要するに先んじて武雄市の場合進められております。全的に食育を考えたときに、やはり何年かでも栄養教諭の方が入っていただいて、その学校、その地域の食育を一緒に考えて進めてもらうという意図でございます。

そういう意味で、固定的に学校に置くんじゃなくて、そういう形でしていくことにより、また給食も理解していただけるだろうと、いろんな面での御協力もいただけるだろうと、食材の調達初めですね、そういう意味でしているところでございます。

そういうことで、栄養職員の方も給食の管理、衛生管理等をしながら、献立に基づいて食材を調達しないといけないと。そして、地元じゃなくて遠方から来られている方もいらっしゃる。そういう意味では、地域の方々のさまざま御協力いただくことが非常に支えになっているという話を聞いておまして、これからもよろしくお願ひしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に栄養士さんの働きでやっぱりそこそこ給食も変わってくるし、伝わり方も変わってきているなというのを感じております。また、本当に一生懸命努力されて、子どもたちの通達にも、ふるさと食の日とかには今の季節の食べ物の説明とか行事食などの説明など入れてもらったり、あと本当に生産者の人の顔ですね、このニンジンは何だれとかさんですとか、やはり地域名が出てきたり、個人名が出てくると、一番子どもたちにとっては感じるわけで

すね。生かされているとか、自分たちの命につながっているとか、この人たちのおかげでとか、そういうものが一番感じ取れるところであると思いますので、やはりこういう連携をもって子どもたちに給食のあり方とか、すべては生き方につながっていくと思うんですが、やはりいただくというところの重要性とかは一番ここが伝えていきやすいところではないかというふうに思いますので、さらに努力をされて、地域、地産地消というところで本当に農業のあり方、農業の大切さとかまでつなげて、食育は食育とかでばらばらに分かれた形じゃなくて、通して子どもたちを育てていくという力になれるように頑張っていたいただきたいというふうに思っております。

あともう1つは、学校給食に関してなんですが、給食センターが民間になるという話も出ているようですが、その件に対してはどうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほどの前の御質問のところでは栄養職員が6名と言いましたけれども、これは毎月、定例の会合も持っておりますし、臨時の会合も持って、ですから、それぞれの食材の調達方法等も情報交換しながらやっているというところでございます。

それから、お尋ねの給食センター等の民営化でございますが、平成8年から5年ほどかけて旧武雄市においては民間委託がなされてきたわけでありまして、そして、その間、それぞれの業者さんも精いっぱい頑張っていたりしまして、給食の内容、あるいは運営上に大きな支障はあっていないように感じております。そういう意味で、早く22年4月からの民営化というのができないかと考えております。もちろん調理部門、それから今検討中なのは運搬部分でございますけど、そのほかのもちろん献立、衛生上の管理等々の問題は責任持ってこちらでやっていくということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

22年からということですが、本当に準備をしっかりとされて、スムーズな移行になっていくようお願いしたいと思います。やはり食材、今質問したとおりに、そのときにやっぱり材料の調達とか安全面、安心した食材が提供できるような形を今からでもその運営になっていくようお願いしたいものであります。

それでは、次の農業後継者問題についてお尋ねいたします。

武雄市としては、この問題について、やはり農業者の高齢化問題とかいろんな問題があるようですが、後継者は一応数字で見られるかどうかわかりませんが、後継者は育っているのかというのと、今の課題とか、そういうのがありましたらお聞きしたいと思います。

よろしくお願ひいたします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

2005年の農林業のセンサスの数値を見ますと、市内のこれは武雄、北方、山内含めてですが、農家戸数が3,410戸ございまして、そのうちに専業農家が305戸、それから兼業農家が3,105戸ということで、ほとんどが兼業農家ということで、そのデータの中で後継者の資料がございまして、約半数に後継者がいるというふうなデータがございまして。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

私も調べてみると、なかなか難しい問題があつて、年齢別にどれくらいの人がいるかとか、専業家とか兼業家というところでなかなかはっきりした数値は出ませんが、やはり私の周りとか、そういうマスコミなどでは高齢化が進んで、水田とかが荒廃していくとかいう問題も出てきているようですが、やはり農業後継者を育てていく上での育成のための支援策、武雄市はこういうことをやっているということがあればお答えしていただきたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

先ほど年齢別の話がございまして、データ的にはかなり高齢化をしているということで、武雄市内の場合は認定農業者がいらっしゃいます。昨年の12月末で139名いらっしゃいますが、それを見ても全体的に50歳以上ということで、かなり高齢化しているという傾向にございまして。

それから、後継者の育成の問題でございまして。これは非常に難しい問題ですが、今、武雄市として独自にやっているということはございせんが、まず経営支援の面でございまして、これは県の農業大学校がございまして。そこでの指導、それから研修の制度がございまして。それから、近くでは杵島農業改良普及センターとか、あるいはJAの指導員さんの経営指導、そこら辺で支援をやっているということがございまして。

それから、資金の関係で認定農業者、あるいは認定農業者になろうというそういう人を対象に就農の研修のための資金、それから就農の準備のための資金、それから施設をつくるための資金、そういう貸し付けの制度がございまして。ただ、後継者だけに限つてという支援については、なかなか難しい問題があるということで認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

いろいろな形としては支援があっているようですが、実際、今こういう不景気の中、派遣労働者が解雇されるとかそういう中、今回の国会でも麻生総理が補正予算案に盛り込んだ水田のフル活用などの農業支援策で、農家の所得向上と地域の雇用拡大を図り、地域を活性化していきたいというふうに述べておられます。また、緊急課題になっている雇用の受け皿としても農業を重視する方針を強調しておられますが、やはり皆さんもわかっておられるように、少なからず田んぼとかを持っていらっしゃる方はわかると思いますが、これが本当に所得につながらないところが一番大きな問題なんですね。そこに社会の問題を投げかけて、そこに雇用していただいて、何とかそういう対策を練ろうじゃないかという話になっているわけですね。

どうでしょうか。本当にそこで、ただでさえ農業の方が自分のところの所得向上につながらないで過酷な労働とか、本当に日々労働されております。でも、今農業で何とか職業としてつくり上げようじゃないかというときに直接的な支援が必要になってくるんじゃないかと思うんですが、いろんな県とか自治体が既に就労を担ってくれるところには給料というか、補てんというか、そういう補助金を出すとか、実際的なことも出てきております。

1つの例は、神奈川県で就労支援に農業塾を開講するというのが今月の6日、新聞に載っておりました。やはり農業を職業としてとするならば、いきなりしたいと思ってもなかなかそこにはつながりませんね。経営的にもですね。だから、やはり市としてできることならば、やったことのない人がまずこの職業をというならば、こういう神奈川県の例ですね、一応最初は20人定員でするそうですが、そして雇用につながっていくような農業に持っていきたいというふうに書いてあるんですが、こういう農業塾の開講なども言っておられます。

それと、私が1つ、詳しくはどういうふうな活用をなされているのかわかりませんが、武雄市にも市民農園というのがありますが、この市民農園にも力を入れていただいたら、農業をしたいとか、今から始めたいという人がここを取っかかりにやっていけるような形にもならないかなというふうにも思うんです。ボランティアであってもいいし、そういう指導員をそこに連れていくというふうな形ができていけば一つのきっかけになるんじゃないかというふうに思いますが、市長はどうお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そのとおりだと思いますね。今、農業の雇用確保をするであるとか、就業者支援であるとか、あるいは農業に広く入っていただくとか、あるいは一円でも高く売るといのがばらばらな状況にあるというのは、多分これは議員と同じだと思うんですけども、一たんちよっ

と整理を今後したいと思っております。

選挙期間中にもさまざまな御意見が寄せられましたので、一たん営業部で組み立てをきちんとしたいというふうに思っております。今までばらばらだったので、1足す1が5とか10になっていないんですね。だから、一たん総合的に市としてどういうふうにできるかといったことについて、ちょっと二、三カ月か四、五カ月かわかりませんが、アクションプラン、計画をきちんと立てたいというふうには思っておりますので、また議員の皆さん、市民の皆さんから御意見を寄せていただければありがたいというふうに思っております。御指摘についてはそのとおりでというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に私、現場、市長が今回現場を見てというふうに言っておられると同時に、現場の声とこういう政策がかみ合わないとか何も身になっていかないというのをすごく感じているわけですね。ぜひともそこに力を入れていただきたいんですが、もちろん武雄市としては農業政策としてレモングラスをブランド化につなげて、それとイノシシ対策の作物として所得向上につながるようにと頑張っていたいただいておりますが、やはりこの農業後継者のところで耕作放棄地とか休耕地の対策で水田耕作を望まれているわけなんです、基幹作物の米、麦、大豆のところにもっと力を入れていただかないと、これは本当に行き詰まり状態になっていくんじゃないかというものを感じております。

本当にレモングラスというところ、あとイノシシの加工場とかも手がけていただいておりますが、基幹作物の米、麦、大豆の生産をすることで、水田有効利用として耕作放棄地や休耕地にならないように認定農業者、集落営農組織などの担い手に地域内農用地の利用集積を行うというふうに武雄市の水田農業ビジョンに書いてあるわけなんです、実際問題、その集積状況はどのようになっているかということと、これは進んでいる、うまくいっているのかということをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

集積状況の数字についてはちょっと手持ちにございませんで、後で報告したいと思いません。

現在、休耕地とか、それから耕作放棄地についてはもう御承知のとおりで、特に山間地におきましてはそういう状況がかなり進んでいるということで、これについては来年度から担い手育成の総合支援協議会の中でその事業に取り組んでいきたいということで、これについてはハード事業、ソフト事業含めて取り組むように今計画をしているところでございます。

それから、営農組合等の集積については、市内の中である程度は進んでいるということで認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

集積状況がある程度進んでいるということがちょっとよくわからないんですが、やはり集落営農組織といっても、法人化に向けてとか話し合いはされていると思いますが、現実私たちのところでもそれは、ほかの地区がうまくいっているかどうかわかりませんが、ちょっと進んでいない状態にあります。

それで、ここが所得につながらないので、やはり所得のないところは法人化になかなか持っていけるということが難しいんじゃないかというふうな、一つの大きな原因と私は思っています。

それで、今やはり私が農業後継者の問題に対して、一番問題点を解決していかないと次に進まないんじゃないかというふうに思う点で、やはり1つは農業従事者の高齢化ですね。それと、肥料とか農薬とか、そういう飼料などの高騰、あと中山間地域の生産条件の不利地が多いということですね。それとイノシシの被害などで収穫間近というところで全滅をしたり、あと地球温暖化による気象状況により作物の収量が不安定であるということ、あと一番問題なのは、米の生産者の販売価格の低迷ということですね。いろんな悪条件が重なり合っているわけなんです。だから、進んで水田を利用して耕作しようじゃないかという後継者が育っていかないというのは、ここら辺の問題を早急に解決していかないといけないんじゃないかというふうに私は思っております。

総理も農業を雇用対策として受け入れていくとか、新しい補正予算を組んでおられるので、どういう形で地方におりてくるかわかりませんが、私としては、こういう水田を担い手として引き受けた場合、やはり市道とか県道の草払いというのが大きな一つの問題点なんです。県道は年に2回草払いが一応決まっているようです。それも道から1メートル以内ですね。本当に水田を引き受けてしまうと、こういう草払いというのがセットで2メートルも3メートルもある土手とか、そういうのが一緒に作業としてついてくるわけなんです。これではやはり経営的にも難しい農業なのに、進んでやっていこうという人がなかなか出てこない一つではないかというふうに思っております。

やはり雇用対策というならば、市道とか県道の草払いとかは一つの雇用対策として考えていかれないか、お尋ねしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

市道の草払い等については、雇用対策の一環になり得るものだというふうに判断をしております。そういった意味で、私はもう1つ、ちょっとつけ加えなきゃいけないのは、やっぱり一円でも高く売るということであります。そして、生産者の方々にぜひ御理解をいただきたいのは、例えば、今度橘町で献上米というのが出ました。これも一定評価を得ているようです。若木では水車米であるとか、だから、例えば、これはちょっと語弊があるかもしれませんが、流通を通さずして消費者の皆さんたちに直接販路をつくと。要するに、来年もまた献上米をお願いしますという方々もいらっしゃるわけですね。だから、そういう意味で消費者と向かい合うような場を我々はことしもつくっていききたいと、こういうふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

要するに、生産者もブランド化で収益を上げるということをいつも市長がおっしゃっていますが、やはり社会の問題を考えて一生懸命やっている人もたくさんいらっしゃるわけで、目の前に迫った耕作放棄地とか休耕田のことを急いで考えないといけない場合、やはり収益面ばかりも言っておられないなというところもあって、そこが苦しいところじゃないかなというふうに思います。だれでもがやはり収益性の高い施設園芸とか、そういうところに力を入れたほうが良いとは思いますが、地域の問題、そういうところも一緒に考えていかなければならないと思っています。

だから、一応いろんな支援の方法が、それと色々な問題があると思いますが、それが1つ提案ですね。そこに雇用対策ができないかということと、あとは水田を耕作するに当たって担い手が利用権設定をした水田、それに対して直接的な補助などを行うということをやっただけだと、これから少し自分も余裕があるのでしてもいいんじゃないかという人がふえてくるんじゃないかと思いますが、それに対してはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は2つに分けるべきだと思います。本当に守るべき耕作放棄地をきちんとするという守る農業と、もう1つは、一円でも高く売らなきゃいけないということ、2つに分けてそれぞれ効果的なことをしなきゃいけない。したがって、守るべきところについては、きちんとやっぱり補助金を流さなきゃいけない。こちらのほうは、むしろ自助努力であります。一円でも高く売れるように我々は場をつくらなきゃいけないということで、今回、武雄市政、農政については2つをきちんと切り分けてやっていききたいと、このように考えております。議員と考えは同じだと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に農政、農業問題をもう少し問題点を追求して、市長がおっしゃるように整理するところを整理して解決していかないといけないんじゃないかというのを私も強く感じておりますので、本当に提案なり問題点、どれが支援できるのかという整理をしていただきたいというふうに思っております。

本当にいろいろな問題とか対策が必要だと思うんですが、いつまでも見せかけというか、表向きだけの支援では本当に待てないというか、そういう状況も出てきておりますので、早急な手だてが必要だと思っております。

すみません、時間になっておりますが、最後の質問で、3番目、農業委員の選出というところでさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

はい、質問を続けてください。

○3番（山口裕子君）（続）

すみません。簡潔にしたいと思えます。

前回、新市になって、農業委員さん37名のところに女性を2人入れていただくことができました。これは議員の推薦枠という形で入れていただきました。本当にいろんな活躍ができて、改革がなされていると私は思っておりますが、女性の参画というところから一つ考えて、目標値が30%、女性が入るのが40%という考えもあります。あと、なりたい人がなれるという形で、この農業委員さんを選出するときにもし地区を考えれば、旧武雄市から2名、北方町から1名、山内町から1名みたいな枠があると本当になりたいという人がなれるような条件ができるんじゃないかというふうに思っております。

農業問題も先ほどから言っていますように、もう今までの農業ではなく、いろんな面で改善していかないといけないときなので、やはり今までの農業委員さんの働きというか、先ほど給食の調達にも農業委員さんが活躍をなさっているように、こころの改革が必要という意味からこういう改正というか、女性が入りやすくなるためには地区割というか、なりたい人がなれるというところからこういう提案をしたいと思えますが、市長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

西村農業委員会事務局長

○西村農業委員会事務局長〔登壇〕

農業委員の女性委員さんのことについての質問だと思いますけれども、議員おっしゃるのは、クオータ制度のことじゃないかなと思っておりますが、あれは国のほう並びに県のほうが制度的に考えていただいて、それが指導的に市のほうにおりてくるということであれば、

市のほうとしては取り組んでいかなければならないと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

2つ論点があります。1つは公職選挙法の枠内ということにありますので、これは公職選挙法に沿う必要があるだろうということと、もう1つは、これは農水大臣もおっしゃっていますけれども、多様な人材を農業委員会には確保しなければいけないということもおっしゃっていますので、これは私も同感でありますので、ぜひ多様な方々に立候補をしていただいて、民意を得た上でぜひ委員に当選されることを私は望んでおります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にそういうふう立候補して委員さんになる形が一番いいと思いますが、なかなかそこに入りづらい条件などもあって、それを改善していくというところでの1つの提案です。

1つ白石町の事例がありましたので、白石のほうは4人、既に農業委員さんがいらっしゃるんですが、白石町から2名、有明から1名、福富から1名という形で4人の農業委員さんが女性として入っておられるそうなので、一応この提案をさせていただきました。

農業委員会も今まではやはり、私も農業委員になったことはありませんし、聞いた形では利用権設定の確認とか、農地から宅地とかの転換のときの確認とか、そういうのが仕事として主ですよというふう聞いております。しかし、今こういう農業の環境が変わってきたことと同時に、やはり生産者とのつなぎ役、先ほど言いました学校給食の調達でも農業委員さんが活躍していただいたり、あと農業者の相談役ですね、後継者を育てる意味でも農業者の相談役、その相談役の中でもイノシシ対策などもどうしたらいいだろうかというところで委員さんが活躍されているとか、あと先ほど言いました後継者の育成、あと家庭の家族協定などの推進、家族の農業経営がうまくいくなような家族協定の推進などに大きく農業委員さんが力を発揮されている市町村もあるわけなんですね。

そういう改善の意味を含めまして、今まではこうだったの農業委員会とか農業ではなく、これから改革していったり、これからはこれが必要だろうという点では、今からそういう新しく取り入れたりということが必要になってくると思いますので、こういうことを含めて市長にまた新しい整理なり改革などをしていただきたいと思います、答弁を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御指摘を踏まえて、農業委員会、あるいはこれはちょっと公職選挙法もありますけれども、関係部で整理をしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

すみません。本当にいろんな問題を抱えておりますが、私たちが今一番考えなくてはいけないことは、私たちの命をつくる食と、それを支える農ということが一番大きいと思います。国民、市民の皆さんがより豊かに安心して安全に安定した生活ができるように、ぜひ一刻も早くこの農業政策に力を入れていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。